

①閻魔堂えんま

閻魔堂は通称「芝堂（しばंदう）」と呼ばれており、堂内には、阿彌陀如来像、閻魔王像、だつえばあ奪衣婆像の3体が祀られている。また、堂のある墓地入口の両側に六地藏の立像が建立されている。この地蔵は天津小湊地域の中で最も大きな六地藏であり、宝永3年（1706）と弘化3年（1846）に奉納した者の名前が確認でき、当時、この地域に念仏講があったことがわかる。

②明神の鯛

城戸地先の海岸から南へ200mの明神岩岡区の海域には、水深3～4m（干潮時）と大変浅い所にもかかわらず、クロダイをはじめ多くの魚類が生息している。戦後一時期、魚類が見えなくなったものの、神明信仰による地元の活動と計画的保護増殖が行なわれ、往時の生息状態に回復した。県指定天然記念物で、海岸道路には明神の鯛の碑が建っている。

③萬福寺（天台宗）

蔵山山観音院と号し、しょうかんぜんおん宮殿の厨子内には本尊の聖観世音菩薩と四天王像が安置され、脇立は不動明王像と毘沙門天像が立ち、厨子前には聖観音像が立つ。当寺の詠歌を刻む額や、安房の名工、初代後藤義光の作である。境内の石造物として、寛政8年（1796）の供養塔や寛政11年（1799）の筆子塚、文政7年（1824）の子安観音像、安政7年（1860）の大日如来像などがある。

④須賀神社（祭神は素戔嗚命）

古来より天津地区住民の信仰を集めている神社である。祭神のスサノオノミコトは、農業神、英雄神、海神など多面的な神とされている。祭礼は7月の最終金・土・日であるが、年によって変動がある。

⑤海福寺（真言宗）

応永4年（1397）に法印日融が開創。昭和45年に近隣にあった吉祥院、宝泉寺及び明神院と合併した真言宗智山派の寺院。本堂には本尊の阿彌陀如来のほか、市指定文化財の千手観世音菩薩像、地藏菩薩像、不動明王像、干支の守り本尊など多くの仏像が祀られている。

境内には大日如来像、弘法大師像、愛宕明神像を祀った大日堂。近世天津に出漁した紀州の漁民が淡嶋神社（和歌山市加太）から勧請したと伝わる淡嶋堂、稲荷社などの小堂がある。

そのほか、旧天津小湊町域で最古の作例の延宝8年（1680）在銘の庚申塔、宝篋印塔3基（うち1基は高さ333cmで、旧天津小湊町域では明治30年に建てられた誕生寺の忠霊塔たいそうかいに次ぐ高さ）、胎蔵界大日如来坐像、筆子塚、六十六部廻国塔などがある。

⑥善覚寺（浄土真宗）

本尊は阿彌陀如来。市指定有形民俗文化財「善覚寺の近世文書」は、関西漁民の関東出漁を伝える貴重な史料として残っており、墓地には紀州出身者の墓石も多く見られる。慶安4年（1651）に近江の国（現滋賀県）から天津村へ移転したと寺伝にあり、関西漁民の房総進出にともなって当地に移築された寺院である。また、本堂の向拝の竜の彫物は2代伊八（武志伊八朗信常）の作である。

⑦日澄寺（日蓮宗）

弘安5年（1282）、日蓮聖人の開創。本尊は十界勧請の大曼荼羅。文永元年（1264）、日蓮聖人の小松原法難に殉じた天津の領主、工藤吉隆公の館跡に、その菩提寺を移して建立された。境内には慈母観音を祀る万霊供養鐘塔、瘡守稲荷がある。また、堂内には、法華経守護の諸天善神が祀られ、とくに八大竜王は、航海・漁業・雨乞いの竜神として信仰されている。

⑧正蓮坊しょうれんぼう

天津の新町に所在。本尊は閻魔王。えんま堂内には、閻魔王を主尊とした十王像、だつえばあ奪衣婆像、弘法大師像の12体が祀られている。正蓮法師によって建立されたという伝承から「正蓮坊」と呼ばれ、堂の入り口に正蓮法師を祀った石碑がある。また、堂内に安置された弘法大師像の造立銘札には、この像造立に関して海福寺31世興章が関与していたことが記されており、真言宗系の支配下にあった堂ではないかと想定される。

⑨神明神社（祭神は天照大神、とようけひめ豊受比売命、ことしろぬし事代主命など11柱）

源頼朝が伊勢の神宮より御分霊を勧請し創建された。「房州伊勢の宮」とも呼ばれる。例祭日は10月16日で、天津地区の万灯が集結し、出店もでてにぎやかである。境内には、県指定天然記念物「まるばちしゃの木」（なんじゃもんじゃの木）と市指定天然記念物の「神明神社の林」の2つの文化財がある。また、『吾妻鏡』によれば、源頼朝の妻政子が産気づいたので安産祈願のために神明神社へ使者がきた。

⑩八幡神社（祭神は、応神天皇）

やつ谷地区で管理しており、例祭日は旧暦9月15日。春には桜が咲き、境内からは、天津の青く澄んだ海が見られる。

鴨川市教育委員会 生涯学習課 文化振興室 郷土資料館 鴨川市横渚1406-1 電話 04-7093-3800 平成21年12月 作図 辰野節子
--